

校長室だより

伝統を継承しつつ 更なる発展を



16代校長 三村 千秋

校訓

自主 敬愛



地域活動にて

6月5日日曜日に、安東・毘沙門台の「グリーン・フェスティバル」が安東公民館で行われ、多くの地域の皆様が参加され、大盛況でした。

学校外でも、安佐中の生徒が茶道や文化的な活動で自分を磨いていることを知りました。

その「グリーン・フェスティバル」のオープニングで吹奏楽部が演奏をしました。

本校吹奏楽部は、毎日、朝練習をはじめ日々の練習を積み重ね素晴らしい演奏をしています。

私が、心に沁みだしたことは、演奏の素晴らしさもさることながら、その選曲でした。

4曲の演奏の最後は、「故郷」。

兎追ひし かの山 小鮒釣りし かの川

夢は今も めぐりて 忘れがたき 故郷

総勢80名近く、1年生が合唱を、2、3年生がそのバックで堂々と演奏しました。

はじめに顧問の岡田先生は、この選曲に至った経緯を、「昨日も朝日新聞に、東日本大震災で津波に楽器を流され自宅跡でトランペットを一人吹いていた少女が報じられていたことなど、同じ吹奏楽を愛する人たちの中には、同じ日本にいて仲間と演奏できない人や、故郷で暮らすことができない方々もおられる。私たちにできることは、精一杯思いを込めて演奏することである」と、語られました。

地域の方々とともに、この演奏を通して、多くの被災された方々の思いを感じながら一刻も早い復興を祈って一緒に「故郷」を歌いました。

吹奏楽部の演奏は、地域の多くの方々や私たちに、故郷や今、生きていることについて考えさせてくれました。

常に、「自分の持っている力を生かし、今、私たちにできること」を考え、行動することができる安佐中の生徒に育ってほしいと願っています。